NIE実践報告

1．タイトル　**適切に批判する力の育成**

2．学校名

福岡県立朝倉高等学校

3．実践者名（代表者名）

荻八州夫

4．学年

第1・2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

小論文　637人

6．単元（本時の学習課題）名

小論文

7．目標(狙い)

社会の諸現象や情報を見極め、多角的に捉える力と主体的に社会と関わっていく力を育成する。

8．評価の視点

小論文の作成において、新聞記事という情報を自らの論拠として適切に活用し、説得力のある論を展開できているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

本校独自の取り組みである「朝の読書」時および学力向上のための課外授業時　合計4時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「食」「福祉」をテーマに集められた新聞の切り抜き記事を読む。（2時間）
②「食事の意義」・「幸せな生活に必要なもの」というテーマによる小論文作成（2時間）

（留意点）
・論拠として記事から得た情報を適切に使うよう指示。
・単なる事例の羅列にならないよう注意を促す。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「小論文を書く時は自分の意見ばかりを書くのではなく、今の社会の状況に目を向ける必要があると思った」「事例を多く知ると視野が広がる」「記事の内容は分かるが、それに対して自分なりの意見を持って深めていくのが難しい」という生徒の意見に代表されるように、自分の考えを深めたりするためにも社会に目を向けることが必要だと考える生徒が多かった。

12．成果と課題

新聞から得た知識や情報を活用し、それを論拠として自分の意見を裏付けようとする姿勢を育てる端緒となった。また事前アンケートでは新聞に全く興味がない生徒が30%であったのが、事後アンケートでは15%に減り、事前アンケートでは記事が読みにくいと感じている生徒が40%いたのに対し、事後アンケートでは80%強が記事が理解できたと答えている。記事を読む活動を通して新聞への抵抗が薄くなったことがうかがえる。こうした取り組みを継続することが課題である。